



平和首長会議 Mayors for Peace

長崎の被爆樹木二世:クスノキ

Second-generation A-Bombed Camphor tree from Nagasaki

1945年8月9日午前11時2分、一発の原子爆弾により長崎の街は廃墟と化し、その年の暮れまでに7万4千人もの市民が亡くなりました。

被爆樹木は、被爆の惨禍に遭いながらも、焼け焦げた幹から再び芽吹き、市民に生きる勇気と希望を与えるとともに、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を訴え掛けています。

貴自治体にお贈りしたこのクスノキの二世が大切に育てられ、多くの人々に愛されることにより、貴自治体の平和のシンボルとなることを心から願っています。

平和首長会議



(長崎の山王神社内の親木)

Mother tree Camphor (*Cinnamomum camphora*)

このクスノキは、生き残った親木の種から発芽したものです。親木は爆心地から800メートルの距離にある山王神社(長崎市坂本)で被爆しました。原爆の熱線と爆風により大きな被害を受けましたが、焦土の中で青々と芽を吹き返し、市民に生きる勇気と希望を与えました。1969年に長崎市の天然記念物に指定され、大切に保存されています。右のQRコードを読むと、被爆樹木の位置情報が表示されます。

QRコード